送 終刑 る

脳裡に劇しく明滅するのであ 言葉を以つて、時報ご共々の 二月號を世に送るべく終刊の たゞしい歳末の様に、月、月し事を思ふ全く文字通りあは の重席をけがし後半期發行の 前半期を、下半進君に、中期 追ひ廻されつ、今日紙本第十 の如何に生活の變轉の早かり ごする此の一年を省みて、 其 少なく、こ、に歳末のあはだ らの絶大なる御援助に心から りしがその間、村内各方面か の竜丘時報を發行するに至れ 資務をあへてこ、に本年最後 確かに多事受難なりし事よ。 ゞしき風影を迎へ過ぎ行かん 前裏からの御支援に依るもの 拘委員各位の御推薦に依りそ の後任こして淺學非才にも不 一ケ月を前澤五雄者に、亦具 る想へば實に今年の編纂部は 十参年度のカレンダーも残り **發行の出來ました事も絕へず** 厚く感謝致します。 一年間が、今新らたに我々の 眞に超非常時であつた昭和 ついが無 なる動きは滔々こして大流こ 東亞新秩序建設の巨歩を進め 赫々たる戰果を收めたる上に 並に事業の上に一大變化を來 變動をもたらし新秩序への大 めざましきものであつた今年 吾々日本民族の成長躍進こそ 今次事變は我々の欲するご否 し一ケ年の足蹟を省み所感の 飛躍があつた、今靜かに過ぎ 年團使命の上にも更に大きな すご同時にその根本方針即青 ても時局の要求により、組織 なつてゐる。我等青年會に於 平和時二、三十年に當る程の つ、嵐の中に暮れて逝く誠に 一ケ年は世界各國に於ても、 端を記して見たい。 聖戦第二年目昭和十三年は

常時局に直面した今日此の時年間の星霜を関して昨今の非 全なものに盡きてゐるこは言 ふ不ナレな點や非才の者の編 て其の重要なるつミめを果す 報は村を單位こした新聞こし ミ深く信じて居る。 もまた認められて來た事ご思 べく價値づけられその重要性 時報が有保新聞ごして早、六 其の完壁を斯すべく種々繁雑 のは禁物である。 來たのであつた。

0 つだけの力のあるものでは無 か?ミ想ひ知る次第である

等にしか過ぎなかつたが來る 綜合發表、紹介、反省、研討 導機關ミして、一層、長**期**戦 べき今後はより良き村の一報 にして唯一單に、物の諸情勢 の一ケ年間は未だく幼稚

展の指針こなるべく强化され 種團体ご提携し協力し村の進 爲め、出來得るならば村內各 部へ打込み龍上村完全發展の ん事を望んでやまない。 下の我々農民の日常生活の内 代表者 龍 共 社 印 刷 所長野縣下伊那部竜丘村門人番地 前 岛 Œ

たした農村の秋、農民各自安 米作も二三割ご言ふ减收を來

印刷人前 澤 五 雄編輯兼 所來 平 一 長野縣下伊那郡竜丘村二 蓋地 年 Ξ

竜

得て我々の喜びこれにすぐる こるのも今年は是れを以つて

最後ごする。 ものなく、

進むべきだこ思ふ。 用して活動せしむるこころ迄 無い。其の意味に於ても重要 明に成つて行かなければなら けて居てはならない時、先づ なる役割へ時報を村一般が使 亦社會の動き情勢に明るく賢 自分達の立場を知る事であり

閑さして凡傭無智の閑夢にふ

無事十二月終刊號へ漕ぎつけ

時報の爲めペンを

朝 【皇紀二千五百九拾九年】

然し農村勞働力の最たる青年 なる事業に對し忠實に服して 青年會の上に提供した、故に こにか、わらず種々の問題を す以外に無計畫なる事業を興 **こして各自の生産の萬全を期** 時局の投映に依つて會員一同 は所謂銃后戰士の一人ミして し得る人材の養成に務めた今 人こして其の任務を完全に果 に階下の御召に應じて帝國軍 かこ云へば、我等青年は實に されば吾々青年は聖戰下にあ かつたのを悔ゆるのみである 聞くが唯それまで手が及ばな 長き戦に参加すべき岩き青年 日兵籍ある者は勿論こん後の に何時召集の下命あるこも直 つて何を目的ミして進んだの

のくんれんこそ青年會の一大 全國青年團機關雜誌『青年』

こ世界に誇る青年の表徴であ

團体よりの指令或は幹部が直 る現狀である。現下時局の認 識等に依り次第に國家的な觀 接体得したる青年會經營の知 に依る新知識獲得、上層系統 に於て行はれた様な變な場所 なるが如く論ずる者もあるが 識に就き青年會が甚だ無關心 念が會員中に反映されつゝあ こん日の青年會員中には過去

向上ミ國民精神の强調ミが大使命である。故に青年体位の 青年運動に参加したのである 盟に依つて我々は一躍大日ほ 伊那郡聯合青年會の縣聯青加 遂行である。即ほん年四月下 割して系統團体ミしての任務 ん青年團員こして新に全國的 次に青年團の闘家的統一に參 なる事業こなつた。

於て本年度初期に村內各種團

前

島

īE

 \equiv

率仕班の活動にまつものごし

本來の使命達成の寫勵進する て、團体自体にあつては其の

こ言・した。依て本會こして

なし勞力率仕については、右 体が銃後後援に闘する協議を

ある二、三これが非難の聲も は直接これを行はなかたので

我等の胸間にサン然ご輝く大 日ほん青年團々員章これこそ 「我等は大日ほん青年なり」 會員の皆々樣私達は銃を執り

ないご斷言で來る。我々は未 休面を汚すが如き者は一人も 言葉を公にして青年を毒し村 曾有の難局に處し青年の思想 反戰的な非國民のする勝手な に備ふべく完璧を期して居る を不動のものこし所謂思想戰 に巢食つて自由主義的な或は 亦青年の態ごはあくまで質實

華かなる事業を好んで相互れ 却つ余りにも自分の力の至て 足して居るものではない、否 ん磨の教養機闘ミしてのほん 剛健でなくてはならない徒に 年間の事業を顧みて必ずも滿 務めて來たつもりである愈々 青年會を終るこん日過し一ケ 來の使命を忘却せざる樣常に に参加するこごは絶對必要事 の意氣をもつて新秩序の建 見よヒツトラーユーゲントを であり喜びである。 りつ、あるこの時われら若人 日も近く東亞の黎明はいま來 た影響は大きい來るべき年に 愈々長期建設の新春を迎へる 次第であります。 して彼等の日ほん青年に與へ 新興ドイツの潑溂さを代表

アジャの夜明をめぐる風が吹 き荒ぶであらう希望ミ努力の は射すのだ。 ついける限り必ず明るき陽光 も東亞の天地には依然ミして はりきる

申すに及ばず會員い外の各位

顧 \mathfrak{h} 3 T

不肖の身をも省りみず大任を の第二年ごも余日少く成りま 世界戦史に稀に見る事變下

し何んごも申譯もご座居ませ 所も無くたゞ名のみにて事こ 年三成りましたが、何の爲す おうけ致しましてより早ーケ 、に至りました事は皆様に對 居ます。

思想戦或は外交戦なご、真の 致します。 すほん當にそうであります事 る所で私共の間く所でありま たゝかいはこれからだこわ到 ちましたが、然し經濟戰又は を女性ながらも深く~病感 申すまでもなく武力戦には勝

長谷川諸先生のご指導の宜し

偏に木下主事先生を始め矢澤 年を過す事がで來ました事は に大なる過失もなく此の一ケ

きこ會員皆々様の御熱心こ村

當局をはじめ先輩諮姉様のご

後援の賜ミ深く感謝致します

こ、に時報を通じてお詫旁々

お禮申上ます。

局より御

挨拶

聖 戰 1 0)

年

を顧

み

れん修養を積まれ女子青年こ 第一線に立つ事はで來ません してのほん分を全からしむる 人的修養は勿論、團体的くん が、銃後の女子青年こして固

民貯蓄報國の使命遂行に當 今次國民精神總動自銃後國

輩各位に紙上から厚く感謝致します。

右失禮乍ら紙上を通じてお

ん禮まで

處に謹みて御禮を申し上げるい喜びである誠に失禮乍ら此事ので來た專は終生忘れ得な を賜り幸に無事務めを終へる よりそれん~懇切なる御指導

收

入役就任

0

設 寄稿下さい 原 稿 竜上青年會編纂部

募

集

りましたご承知の通りの不 に推薦せられお受する事に もの何分共に宜數くお願ひ こんご不圖も竜丘村收入 原 義直

熱こを新年號の爲めにご 若人の新らしいい氣ミ 長き抗せん下の銃後護

ます。

の つたら氣絶して終ひはせ が四萬圓の村の御臺所を ます。私如き四五百の私 か預 も財

こそ肝要こ存じます。 が、幸にして青年教養最もご 惟ふに三月馬島先生のご轉任 より拙なき胸を痛めました 二與 り 風内官公署學校會社工場及び各種團體各組合は勿論村民 を位に對し、ご協力を懇請せ し處幸に各位の真摯なるご同 情言ご援助を得て本日までに 左表の如き好成績を收め得た るここは只管感謝の外無之邦 家の爲滿腔の慶祝ミ深甚な

私如き未熟なるものがあまり 來ました事は誠に喜ばしくい 先生方のご指導を仰ぐ事ので 理解ある矢澤先生並に長谷川 まもなほき憶に残る所でご座 あるご援助に對し、重ねて深 兹許各部首脳者各位の理解 厚なる謝いを表するご共にこ 敬意を表する次第に候 ん後一層のお支援を希求致

拾二月五日 龍丘郵便局

紙 よ 9 御

禮

义、常こ書刀: し下さつた、前鳥得一氏には深謝致します。 し下さつた、前鳥得一氏には深謝致します。 保證新聞の基礎を成す保證金積立に當つて公債證しよをご貸保證新聞の基礎を成す保證金積立に當つて公債證しよをご貸 信用組合、電氣組合、役場並に原稿を常にお寄せ下された先 义、常に當初より大いなるお援助を特に給はつた、生糸組合

編纂ぶ一同

辭 致 束 成 役 良いので」三聞かされて稍々 如何ミ案じて居るものであり 明朗收入役笹崗さんの跡目ご 安心を得て就任致した様うな 三心配して居りました。或る して皆様方に迎へて頂けるか 次第誠に小心で短氣で剛情で 村有力者の話に「收入役ご云 ふものは馬鹿で正直であれば へて、居るものでありまして ーッコクであらゆる欠點を具

而し皆樣のお引廻しの如何に 何卒皆々様のご指導ご鞭韃に は無いかこも思はれます。 依りまして一人前の收入役ミ 依りまして明朗にやれるので して行けます様ご引廻しの程

お願ひ致します。 先づは右簡單乍ら就任のご

据置貯金新預入額

(滿期受取金) 五、〇九五圓 (愛國國防共) 七、二八四圓 月掛貯金新契約額 簡易保險新契約額 振替貯金口座新設 三口

(成人保險金)三六、二〇三圓 (小兒保險金) 六、四六四圓 郵便年金掛金額 九二七圓 支那事變國債應寡額

貯蓄債券應慕額 一八、二七五圆

置

一、三三五圓

誠に良

防空訓練感

想

役

串

變下

第二次

出來て居た!

綿 製品 配 給問題に 丘 の 0 6)

生

極めて注目されて居るが其批 對して如何に割當てられるか て産業組合並びに小賣業者に 品本縣割當品は配給機關ミし 率につき縣當局は次の割合を 發表した。 勞働者農民向き買上げ綿製

産業組合を通じるもの七〇% 、農山漁村向き 業組合 0

現下の問題は營業者が農村用 商業組合を通じるもの三〇% 二、工場鑛山勞働者用 商業組合 一 () () %

製品問題は、組合ご商人の大 運動を起して居るのである。 きな對立を來たして居る。 らして其の八割が至當である 現在長野縣産組の現實の力か それについて産業組合側では 商權擁護反產運動に結合して 割當量が不當だこ其の不滿を 綿製品を産組で七割こ云ふ、 こ本縣へ陳情して居るので綿

戦時下の配給統制が强化され 應し協力すべきかにつき所見 こころの國策に吾ら如何に順 ついて倦き起こさるであらう 機構の良否ミ綿製品に限らず 生れた問題乍ら私は其の配給 るに伴ひ當然生るべくして、 を走り書して見たい。 今後あらゆる重要物資配給に ならないのだ。

それへ配給するこしたら誰が を直接になして居るからに外 に生産關係にたずさはる仕事 それらの人々が國防國家の上 配給せよこ云ふ當局の企圖は のものでなく丈夫な綿製品を 農民ご勞働者に特にスフ入れ

けれごも産組の行き方ご商人 機構から根本的に異つて居る の營利本位の行き方ごは配給 配給の責任を擔ふか。それが 産業組合ご小賣商人である。

線 青年團運動資金を記せらる 0) 勇士より

顧みこれを以つて本年度壯丁 種々協議の結果目下の時局に 青年會ミしては誠に感謝感激 れ度き旨申出された。 られ青年會運動資金に供せら を満期退會記念さして贈呈せ 方面出征中)の代理さして竜 氏より令息今村康郎君(北支 に堪へず直に是が使途に就き 丘青年會へ金拾五圓也の金額 去月三十日長野原今村禮治

現役入營兵の壯行會を盛大に 尙左記の如き意味を以つて同 御好意を寄せられ謹みて御禮 それぞれ呈せられ、男女會員 同じく女子青年會へ金五圓を を申上ぐる次第であります。 遠く戰場の彼方より異常なる 學行するこここなつた。 等しく感激の意を表してゐる 人より長野原青年會へ金五圓

事は今次訓練中花形ご存じま

試みである家庭防火群の活動 の進步の跡を示し殊に最初の 管制は第一次訓練に比し一段 合訓練ではありませんが燈火 るにも拘はらず勇敢に而も實 は其の組織の大部分が婦人な 生産組合に於て亦然り、要す こ信じます。

繭口挽糸量平均は左の通り

口挽糸量平均は左の通り發供繭千三百餘點に對する秋

十八日に至る二鷺夜に亘り行

去る上一月二十六日から二

れた防空訓練は各位の一致

は邦家の爲め洵に欣快に堪へ 協力に無事終了事しました事

いこころであります。

今次訓練の目的こなる重要事

ては複雑困難なる狀況現示に りました事は特に注目に價ひ 防火班消防の活動に至りまし りては秣庁整然動作敏活にな こ努力を要す事項を申上げれたのでありますが今後猶一段 二、燒夷彈に對する認識並に ば概ね左の通りこ思ひます。 一、狀況現示方法の研究

行發日五十 月二十年三十和昭

、燒夾彈攻撃に對する防空

機構の活動

する事ご存じます。

右の三項目にして完全なる綜

切に防火動作を演練されたる

三、第一次訓練の經驗に鑑み

精神訓練の徹底

燈火管側の徹

戦的に活動され訓練末期に至 誠に豫期以上の成績を收め得るに今次訓練に於きましては

火器具の運搬方法等特に秩序叉防火訓練に於きましては防 期以上の成績をゝさめ得た事 よく第一回の試みこしては豫 こ行はれ一名の負傷者もなく しては極めて沈着に而も整然 小學校兒童の待避訓練に於ま

構へ委されなくなるのは當然 應じて公正に配給さるべき條 綿製品が特殊な人々に必要に 件があるならば絕對に營利機 の事である。

・産組一元化の方針すら樹て 最初の綿製品の配給が委され られたのであつた。 事である以上商業者の機構に 利益の程度に於いて賣買する 利主義が消費者の必要に應じ 人々々につき時局の認識を疑ら敵意を持つのではない其個 産業組合は小賣業者に對し何 て物資を滿すのでなく自己の のでもないが制度の上から營

割當量を記して、 左に決定を見た各府縣の配給

奈良 熊本 廣島 口 石川縣 縣別 七五〇〇%% 產組 八七五〇%% 七 六 0 五 % = 0% 三 〇 % 三抗% = 0% 五〇% — Бі. % 小賣業者

)

開會の辭

代田組合長

默禱 出征將兵の為に

家の光晋及狀況報告

入つて、益々經濟統制が進行 戦時經濟は長期建設の段階に するご覺悟すべきだ。

竜 JT. 組合の秋霞

事項を決議

れて試験品種の糸量平均ご共 品種別糸量の多少が如實に現 表された。 に興味ある結果を見せて居る

改中巢×一〇七拾豐掛七二厘 改中巢×改安 拾壹掛一三厘 一一一×一〇七拾参掛一三厘

白×新白 試驗品體 拾參掛七七厘

自共緊張し、用意萬端整のへ

てむこう鉢卷符機の姿勢で何

る軍需資材の充分の充足の爲 龍江。 家 0 光讀者大會== 竜丘

給制限に照さねばならないの

此の統制も皇軍が戰線に於け た時代は既に過ぎたのである そして自由に商品が購入し得 **國策に協力する事は現下の銃** だの 戦時統制の强化に對應する事 からうか。 後に於ける資材の節約三更に

兩村聯 合 0

参考に資し 二月一日時又劇場に開かれ晝 序で開催出席者八百余名 食券、菓子包を配布し左の順 開會 午前拾時拾分 國歌君が代齊唱 宮城搖拜

たい。

一、協議事項

祝辭 龍江小學校長

二木組合長

口挽糸量發表

すみ外八名を擧げ左記中合せ 執る可き對策如何右委員市瀬 戦時下に於ける家の光讀者の

平均糸量

鐘 三叉白×新白 拾六掛一四厘

> 雨村に講讀者八百數十名を 合 せ

況

有する家の光講讀者大會は十 二、戰時下の物資を大切に扱 學げませう のものでも貯蓄報國の實をひ生活の革新を圖つて僅か 全般的利用を爲し銃後の生 産増加を圖りませう 私達は産業組合の事業の

を計り民族の發展に盡しま 健康に注意し体位の向上

上

產業組合精神網領

詔書奉讀

林龍江組合長

四、家の光讀者ごしての內容 の活用を計りませう

· 午前拾貮時 閉會の辭 下村 講演 信用組合聯合會 松澤數一氏の話を聽く 藤本理事

· 產業組合歌齊唱 余興 電氣館出張映畵を見 て午后四時半終了した 竈食後

年 賀 郵 便

士· 日· か 5 特 81 開 取 扱

5

萬全を期する寡こなつて各係丘郵便局では此れが取扱ひの 九日まで取扱ふ事ご決定した り來る十二月二十日から二十 ので年中で一番繁馴を前に龍 賀郵便特別取扱ひは例年の通 師走も益々旬日に迫つて年 又はポストに、なるべく忙しにして年賀郵便ご朱書し窓口なつて居るが差出すには一束 時からでも受付出來るまでに くならない二十五日前に投凾 されん事を望んで居る。

が國民の光輝ある使命ではな

耳外內

鼻 時 科科科 叉

北 原 話五 四 番院

年 -賀狀各 種賣出し

ハンコー 障子紙。中折紙各種 各種團体 戦地の慰問品は 額椽、硯箱、算盤、寫真ブック各 戰 聖戦大捷の皇 慰問年賀狀を振つて出しませう 地慰問 は 新生堂文具店 特に勉强致します の記念品御用は 軍に感謝の誠意を捧げ 何も入荷 種

東京 朝日 第一月より購讀申込の 大学 一月附録四枚綴美煕 新 上半期分一月より六十二次一日附録信毎便覧は 月附錄四枚綴地圖入り カレンダー【見本あり】 長 野 知 原 新 込の方にも差上ます真帳近(日進呈)美麗 朝日カレンダー【見本あり】 が用まで紙 原 新 【見本あり】 聞

お正月の讀物 新年號各雜誌 年 日記かるた類 賀はがき 銃後必讀の書【土ご兵隊】 久米屋書店へ を

國民 精神總動員 會

新年 忘送年別 會 一には 生、馬、豚 肉勉強の當店獨得の 鍋 を

康

は

肉食から

食 話 二肉店

細